

「はらっぱ」に関する保護者アンケート調査結果報告書

本調査は原村の小中学校の子どもを持つ保護者に対して、子ども・子育て支援センター「はらっぱ」の利用状況をはじめ要望を把握し、今後村として「はらっぱ」の有効利用を検討する際の資料を得ることを目的として実施した。

調査の概要

実施期間	令和7年9月16日～9月30日
実施対象者	原小学校、原中学校に子どもを持つ保護者（子ども1人につき1回答）
対象者数	原小学校 404人、原中学校 204人（計 608人）
回答者数	108人（回答率 18%） 内訳：小学生 90名（22.2%）、中学生 18名（8.8%）
実施方法	連絡網「オクレンジャー」にて周知、インターネット上のフォームにて回答

※小数第1位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

1. 小学生保護者による回答

利用者データ・利用状況

学年

小1：14人（15%）、小2：15人（17%）、小3：15人（17%）、小4：19人（21%）、小5：11人（12%）、小6：16人（18%）

学童クラブ利用

利用中：30%、過去に利用：13%、利用なし：57%

施設までの距離

～1km：14%、～2km：32%、～3km：27%、～4km：6%、4km～：21%

放課後の利用について

利用有無

利用している：45件（50%）、利用していない：45件（50%）

利用頻度（利用者のみ）

ほぼ毎日：31%、週2～3回：11%、月1～数回：38%、不定期：20%

利用目的（利用者のみ）

短時間の待機（送迎等）：65%、友達と過ごす居場所：25%、バスのお迎え待ち：8%、その他：2%、宿題・学習：0%

利用していない理由（複数回答可）

- ・帰宅している（47%）
- ・学童クラブを利用している（29%）
- ・お迎え待ちで利用したいが「はらっぱ」の利用に不安や不満がある（22%）
- ・下校後すぐ迎えに行っている（9%）
- ・他の施設を利用している（4%）

不安・不満の内容、改善策（自由記述抜粋）

- ・感染症や他利用者の利用の仕方が乱暴なため。また、「原則利用しないで」の要請が昨年度あったため、敷居が高くなってしまった。
- ・注意喚起、使用上のルールやできないことの案内ばかりで、子供が歓迎されているのか疑問。
- ・以前、事故に居合わせたため安全管理に不安がある。
- ・感染症流行時のマスク着用の徹底（学校との連携など）。
- ・1人で遊ぶものが少ない。楽しい遊びがない。
- ・学校から向かう時に道を渡るのが怖い。道幅が狭く車の出入りが不便。
- ・友だちとの関わりの中でのトラブル。
- ・子どもが「つまらない」と言って行きたがらない。高学年でも楽しめるアイディアが欲しい。
- ・混雑していて子供同士のトラブルがあるから。

放課後の利用に関する改善要望（自由記述抜粋）

- ・工作や手芸、DVD上映、カードゲームなど、大人が一緒に関わってくれる時間が欲しい（以前の原っ子広場のように）。
- ・学校の下校または学童以外の選択肢があるのがおかしい。短時間のお迎え待ちは学校の教室で良いのでは。
- ・面白い場所にしてほしい。以前の「はらっぱ」のようにしてほしい。
- ・建物内で走り回らない、駐車場や道路で遊ばないなどの安全管理。見守りの配置。
- ・赤ちゃんルームにいる人が暇そななら、小学生とも遊んで欲しい。
- ・管理的なルールが強い。子どもたちを交えて新しい利用規程を考えてもいい時期。
- ・駐車場混雑時に図書館や保育所への一時駐車を許可してほしい。
- ・学童のよう18:30まで利用できると仕事帰りに迎えに行きやすい。
- ・「こども支援センター」として機能していない。「親を待つ間の場所」以上の機能（遊び場、居場所）を再検討してほしい。
- ・ワンフロアだけでなく、中高生や学童に行きたくない子も利用しやすい環境づくり。
- ・体育館や校庭の使用許可（保険の工夫など）。

- ・テーブル席とフリーゾーンのゾーニング（遊ぶ子と宿題する子の分離）。

土曜日・長期休暇中の利用について

利用有無

利用している：24%、利用していない：76%

利用頻度

不定期(73%)が最多、次いで月1～数回(18%)

利用時間帯

午前(10～12時)：89%、午後(13～15時)：68%、午後(15～17時)：19%

利用上の困りごと・改善要望（自由記述抜粋）

- ・運動場などを使えるようにして欲しい（スタッフの配置含め）。
- ・ゲーム時間の制限やルールの徹底、大人の見守り・指導が欲しい。
- ・子どもと連絡が取れないことが心配。
- ・開館時間を早めてほしい（朝8時、7時半など）。
- ・長期休暇中の学習支援ボランティアの継続希望。
- ・休日に洋服交換会などのイベント開催。
- ・帰る際の声かけや掃除の習慣づけ。
- ・長期休暇中の弁当手配の仕組みがあればありがたい。

未利用者の条件付き利用意向

「条件が合えば利用したい」と回答した人は49%でした。

利用したい条件：楽しいイベント、指導員・見守りの配置、友達と一緒になら、開館時間の前倒し、予約なしのワークショップ、高学年向けのボードゲーム等。

2. 中学生保護者による回答

回答数・学年

18名（中1：53%、中2：26%、中3：21%）

放課後の利用

利用している：3件(17%)、利用していない：15件(83%)

未利用の主な理由：帰宅している(67%)、お迎え待ちで利用したいが不安や不満がある(17%)、部活のため、中学生の居場所ではないと感じる、図書館を利用している等。

改善要望：夜間の利用、広い空間の有効活用。

3. 全体的回答より（ボランティア・運営・指定管理）

ボランティアについて

「はらっぱ」ボランティアへの協力意向

「できる範囲で協力したい」9件(8%)、「今のところ難しい」94件(87%)、未回答5件(5%)

協力内容：行事やイベント(100%)、学習の見守り、読み聞かせ・工作など。

ルール・運営・指定管理について

現在のルール・運営への意見（抜粋）

- ・「放課後の利用はお迎えの短時間」の定義が曖昧で利用しにくい。
- ・「帰宅が原則」等のルールが、利用を歓迎されていない印象を与える。
- ・ボランティアのみでの運営は限界があるのではないか。
- ・思い切り遊べるよう、校庭や体育館への移動を許可してほしい。
- ・低学年の安全確認や緊急時のため、電話の取り次ぎを許可してほしい。
- ・お迎え待ち以外の理由（遊び、居場所）としての方向性を明確にしてほしい。

指定管理制度（民間委託）について

賛成	31% (34件) 理由：楽しい場所にしてほしい、村の責任ある見守り、職員の熱意への期待、責任の所在明確化など。
反対	1% (1件) 理由：今の職員との関係性、スタッフ待遇の問題など。
どちらともいえない	56% (60件) 理由：委託団体による、予算の問題、公共性の喪失懸念、変化への不安など。

委託選定で重視してほしい点（上位）：既存ルールの確実な運用(34%)、開館時間の柔軟化(34%)、イベントの充実(28%)、ボランティアとの協働(26%)

4. 調査結果まとめ

- ・回答率：対象608件のうち108件(18%)。本結果は傾向把握として用いる。
- ・放課後の利用：小学生の利用率は50%、中学生は17%。年齢による利用差が確認された。
- ・利用目的のギャップ：施設側が想定する「待合い中心」の運用（実際も65%が待機目的）と、一部保護者・子どもの「交流・遊び」への期待との間に機能面のギャップがうかがえる。
- ・未利用理由：帰宅、学童利用のほか、感染症や安全面、活動内容への不満が挙げられた。
- ・土曜・長期休業：利用は24%。未利用理由は「他の予定」「何ができるか分からぬ」等。

- ・運用改善の提案：開館時間の見直し、見守りの強化、ゾーニング、情報発信の改善などが寄せられた。
- ・ボランティア意向：「今のところ難しい」が87%と多く、小中学校の保護者が子ども支援に関わることの難しさが示されている。
- ・指定管理への意向：「どちらともいえない」が過半数（56%）。選定時にはルールの運用や時間の柔軟化、イベント充実が求められている。